科目ナンバリング	U-LAS20 10001 SB48						
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER25 1E6 English Reading			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 木下 千花		
群	外国語科目群	分野(分類)		使用言語	日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	金1	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

『ゴッドファーザー』（フランシス・フォード・コッポラ監督、1972年）は、アメリカ映画産業の転換点となった作品であるばかりではなく、世界映画の名作であり、その図像や台詞が教養の一部となっている古典である。本授業ではこの映画の製作プロセスや受容を解説し作品を分析した英語の書籍 Jon Lewis, The Godfather, 2nd ed. (London: British Film Institute, 2022) を毎週6-8ページ程度のペースで読む。 E-learning (LMS) を通しての質問、授業での発表とディスカッション、映像クリップを使った解説・紹介を通して、含意の取りにくい洗練された表現や文化的な背景についての疑問を解消し、英語表現についての理解を深める。

[到達目標]

・英語圏の知的な一般読者や大学生を対象とした英語をある程度まとまった量読むことで、英語を和訳せず英語として理解する力を培う。
・課題箇所について英語で要約を書いたり口頭でコメントを述べたりすることで、リーディングで得た知識をアウトプットに繋げることができるようになる。

[授業計画と内容]

・英語圏の大学の一般教養科目で読む程度の英語に触れ、最初は無理矢理でもある程度の量を読み、理解力を培う。

授業計画は以下の通り。ただし、あくまで予定なので、変更する可能性がある。
第1回自己紹介、教科書および授業の進め方の説明
第2-3回 映画鑑賞
第4回 chap. 1 I Believe in America, 6-12, l. 16.
第5回 chap. 1 I Believe in America, 12-21, l. 8.
第6回 chap. 1 I Believe in America, 21-30, l. 4.
第7回 chap. 1 I Believe in America, 30-37, l. 5.
第8回 chap. 1 I Believe in America, 37-45.
第9回 chap. 2 I Believe in Hollywood, 46-53, l. 13.
第10回 chap. 2 I Believe in Hollywood, 53-61.
第11回 chap. 3 I Believe in the Mafia, 62-67, l. 19.
第12回 chap. 3 I Believe in the Mafia, 67-73.
第13回 chap. 3 I Believe in the Mafia, 74-82, l. 11.
第14回 chap. 3 I Believe in the Mafia, 82-89.
《期末試験》
第15回 フィードバック

・履修者は、第4-13回は毎回上記の指定部分を読んで予習してくること(「授業外学修」参照)。

英語リーディング ER25(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER25(2)

・毎回授業内で上記予習範囲についてのテストを行う（辞書と教科書のみ持ち込み可）。
・1回はグループ・プレゼンテーションが回ってくる。プレゼンは原則として英語で行い、パワーポイントも英語で作成すること。
・授業中は積極的に授業に参加すること。

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

5回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。
授業への積極的な参加: 20%
映画コメント: 5%
プレゼンテーション：10%
授業内読解テスト5x11=55%
期末試験: 10%
・正当な理由や事前の相談なしにプレゼンテーション担当回の授業を無断欠席した者は、上記「課題」のプレゼンテーション点のみならず、「授業への積極的な参加」（20%）から減点する。

[教科書]

Lewis, Jon 『The Godfather』（British Film Institute, 2022）ISBN:978-1-83902-458-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習:
毎週、範囲(6-8ページ程度)を読む。和訳はしないこと。
・非常に重要である/興味深いと思った文には何らかの印をつけるか、書き出す。
・「要するにこういうこと」という簡潔なメモを英語もしくは日本語で適宜余白に書き入れる(もしくはノートに書き出す)のは効果的。
・一方、意味不明の文があれば、辞書を引いて単語の意味を調べ、構文と前後の意味を再確認する。

・それでも意味がわからない文には印をつけるか書き出すかし、授業中に質問する。
プレゼンテーション：
・「予習」をしたうえで、該当回の内容についてグループ・プレゼンテーションを行う。詳細は第1週に説明する。
なお、グループ活動への参加に支障がある場合、他の課題などで対処するので相談すること。

[その他（オフィスアワー等）]

LMSを予習および授業中に使用する。インターネット、電子メールも使えることが望ましい。これらのツールをどうしても使用できない事情がある履修者は、相談すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]